宝塚第一小学校教育環境適正化検討委員会

第8回 会議概要

開催日時	令和7年(2025年)7月7日(月)10:00~11:30
開催場所	宝塚第一小学校 視聴覚室
出席者	【委員】15名 【教育委員会事務局】6名
次第・議事	1 開会 2 委員紹介と委員長・副委員長の選任 3 報告 (1) 令和7年5月1日時点の児童数・学級数について (2) 宝塚第一小学校の児童数・学級数の推移について 4 議題 (1) 宝塚第一小学校の教育環境適正化について (2) その他 5 閉会
会議の 主な結果	<p>今回の会議は、ジオタワー建設に係る議論からの「転換期」となるため、本委員会の方向性について、委員の皆さんから意見をいただいた。</p> <p>①児童の登下校で、狭い歩道に児童が一行に連なって登校しており、大渋滞が生じるなど、住民から問題視する声が上がっている。</p> <p>②子どもたちの負担が少しでも減るように、今ある環境の中で学校施設のことについても議論をしていきたい。</p> <p>③適正規模にするために校区変更は必要と思うが、小中一貫でも校区変更が必要ということになると、効率的に良くない。</p> <p>④地域の学校への愛着はさておき、子どもにとって何が良いのかということを議論すべきで、800人規模の試案を提示してみてもどうか。</p> <p>⑤校区編成よりも、体験で他の学校へ行くということがあっても良いのではないか。</p> <p>⑥大規模校である施設が子どもに与える環境の厳しさについて、ある程度ハード面で変えていく必要がある。子どもの健康を損なわないような議論を重ねていく必要がある。</p> <p>⑦本会議で小中一貫教育のメリット・デメリット、他自治体の先進事例を基に、スピード感をもって議論していくことが必要ではないか。また、教育内容と実態に即した予算の配分についても議論すべきである。</p> <p>⑧校区変更は手段であり、一番大事なのは、子どもたちの教育環境が適正かどうか。小中一貫校が将来的にあるにしても、今のままでいけるのか、今のままでは無理なのかの議論が必要である。</p> <p>事務局からの回答 →小中一貫校の時期というのは、人口の変動によって変わってくる。それぞれの学校ごとに作成している推計を基に大体どれくらいの時期になるか、次回以降の会議で提示することがで</p>

	<p>きると思う。</p> <p>校区の地域割でキーになるのは、昔からある学校や、大規模校の宝塚第一小・長尾小である。それらの学校から検討を始め、周辺校を含めて整理していくことになる。現在は、具体的な議論が出来ていないため、試案等を提示することが出来ないが、次回以降の会議で提示させていただくので、また検討をしていただきたい。</p> <p>短期的な対応としての学校施設の小規模修繕については、学校の意見を聞きながら対応していく。本委員会で一定の考え方をまとめて教育委員会にご意見をいただく方法でも良いと思う。</p>
会議録(要旨)	
事務局	<p>【1 開会】</p> <p>【2 委員紹介と委員長・副委員長の選任】資料1に基づき紹介</p> <p>昨年度の委員長、副委員長に、今年度も引き続きお願いしたいと思うが、よろしいか？</p> <p>～ 異議なし ～</p> <p>それでは、お二人にご挨拶をお願いします。</p>
委員長	<p>旧来から一小はマンモス校であったが、タワーマンションが新たに出来て、人口がまた増えるという話が2022年の秋頃にあり、教育委員会と話し合っ、地域の自治会の皆さん、育友会の皆さん、地域の各団体にお声掛けし、宝塚第一小学校教育環境適正化検討委員会を発足し、2023年2月に第一回目の委員会を開催して現在に至っている。</p> <p>これまで、計7回の委員会を開催した。フェーズ1として、「通学区域の弾力的運用」いわゆる学校選択制を採択している。今回、次の段階に向けて、新しいメンバーを迎え、また議論を深めたいと思う。どういう教育環境にしたらいいのか、いろいろ難しい問題、課題があると思うが、是非ご協力の程よろしくをお願いします。</p>
副委員長	<p>円滑な議事進行を皆さんにご協力いただきたいと思う。よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、これからの進行を、副委員長をお願いします。</p>
副委員長	<p>【3 報告(1)令和7年5月1日時点の児童数・学級数について、(2)宝塚第一小学校の児童数・学級数の推移について】</p> <p>議事3報告に入る。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>報告事項について、(1)、(2)を一括して説明させていただく。</p> <p>資料2「令和7年5月1日時点の児童数・学級数について」に基づく説明</p> <p>1 宝塚第一小学校の児童数・学級数について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝塚第一小学校の児童数・学級数について、令和7年度と令和6年度の5月1日時点の数を記載している。 ・通常学級の児童数が昨年度と比べて、21人減となっているが、学級数は変わらず32学級になる。 ・特別支援学級の児童数が8人増となり、自閉情緒学級が1学級増となっている。

・各学年数人の増減があるが、令和6年度に卒業した6年生よりも令和7年度に入学した1年生が少ないことが直接的な減要因となっている。

2 ジオタワーグランレジスの契約状況、入居状況、入居前区域外就学状況について

・マンション開発事業者に対して定期的にヒアリングをしており、令和7年6月1日時点の情報を記載している。

・①北棟については、今年の3月に竣工し、315戸中約220戸が成約しており、約130戸が入居済みとなっている。令和7年度から8年度中に宝塚第一小学校に就学する児童は10人以下と聞いており、現在、5人の児童が既に就学している。ただし、この5人の児童は、元々宝塚第一小学校区に在住していた児童であるので、児童数の増減に影響はない。

・②南棟については、来年の3月に竣工予定で、322戸中約100戸が成約している。令和8年度に宝塚第一小学校に就学する児童は、今のところ0人と聞いている。

・入居前区域外就学状況について、ジオタワーグランレジスに入居予定であり、校区外から宝塚第一小学校へ就学している児童数は0人と、今のところ確認している。

・学年別 宝塚第一小学校児童数 及び 弾力的運用制度利用者について、参考に記載している。令和6年度と昨年度の弾力的運用の制度を利用して、周辺校に就学した児童数を表している。第一小の児童数を令和7年5月1日時点で修正している以外は、書面会議時に示したもののから変更はない。

資料3「宝塚第一小学校の児童数、学級数の推移について」に基づく説明

1 宝塚第一小学校の児童数、学級数の推移

・平成22年から令和7年度の16年間の児童数と学級数の推移を示したものである。

・直近のピークで平成25年度に1182人の児童がいたが、令和7年度は1043人となり、11.8%減少している。

・年度下の○数字については、「2 宝塚第一小学校区における平成22年度以降に竣工したマンションについて」のマンションの○数字と対応している。

2 宝塚第一小学校区における平成22年度以降に竣工したマンションについて

・⑦⑧のグランレジスは除いて、この16年間に6つの大規模なマンションが建設されたが、宝塚第一小学校においても緩やかではあるが、少子化の影響により児童数が減少している状況である。

3 住民基本台帳による人口

・宝塚第一小学校区内の町丁別の0歳から14歳までの人口をまとめている。

・私立に在籍している児童生徒数も含まれている。

・大規模なマンションがある湯本町、梅野町、南口2丁目、武庫山2丁目などは児童生徒数が多い。

・梅野町やその他一部地域で令和6年度から若干増加している地域もあるが、全体的には減少傾向にある。

・宝塚第一小学校区は、小学校進学を機に、転入してくる世帯が増えてくる傾向にあることや

副委員長	<p>私学にいく子どもも一定数いるため、就学前の子どもの数の予測は困難であるが、4学級編成となる140人を超える年代が5歳児から3歳児までと続くので、学級数はしばらく30学級が続くものと見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状を踏まえると、今後も1000人規模を維持した児童数が続くため、宝塚第一小学校の「教育環境の適正化」を検討していく必要がある。 <p>報告事項(1)、(2)の一括での報告があった。質問はあるか？</p>
委員	<p>通学路という視点で、宝塚第一小学校区における平成22年度以降に竣工したマンションの①～⑧を2つに区分した。</p> <p>【青コース】児童数479人 (妙宝寺の横から日ノ丘橋付近の五差路を南口1丁目まで下りて、踏切まで出てくるコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五差路から点滅信号までの道が、子どもが一列で詰まっている状態である。 <p>→①、③、⑤</p> <p>【黄色コース】児童数140人 (湯本町側から宝塚南口駅に来て、線路の下を郵便局側に抜け、線路沿いを歩くコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝塚南口駅に向かう道路は、狭い歩道に子どもが一列に連なっているため、たまにセブンイレブンぐらいまで列が続くなど、大渋滞になっている。 <p>→②、④、⑥(⑦、⑧)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約600人が踏切のところに集中しているという状態になっている。 ・愛護部の立場から言うと、子ども達が集団で来た方が守りやすく、バラバラで来るよりは良いと思っているが、住民からは問題視する声が上がってきているという現状である。 ・⑦、⑧について、どのルートを通すのかという課題があるが、全体の児童数から言うと、減少しているところもあるので、単純ではないと考えている。
副委員長	<p>通学路に関するものを含めて、質問はあるか？</p>
委員	<p>宝塚第一小学校は、元々は800人規模の学校でスタートしたということや、資料等の中には表れていないが、給食室が800人規模を想定したものであって、その中で1100食ぐらいを作っているということがある。</p> <p>本委員会の中で、通学路はもちろん、教室や給食の調理のことについても、そういったことを鑑みて臨んでいただくようお願いしたいと思う。</p>
委員長	<p>検討委員会が立ち上がっているのは、本委員会を含めて、いくつになるのか？</p>
事務局	<p>宝塚第一小、長尾小、中山台地区、西谷地区の4つである。</p>
委員長	<p>長尾小学校については、過大規模校であるが、そのことがあまり問題視されていないことが不思議である。その理由としては、長尾小学校は教室の数が多く、まだ余裕があることや、運動場が広いことなどがあると思うが、同じ大規模校でありながら、そのあたりの温度差があ</p>

	<p>ることに違和感がある。</p> <p>今年の小学校の通常学級児童数を見ると、極端に差が開いている。近隣の逆瀬台小が234人、すみれが丘小が236人、光明小が157人で、極めていびつな状況になっている。当然ながら一校の問題もさることながら、市内全域の小学校児童数のアンバランスがすごくはっきりしてきている。そのあたりをここで議論するのはどうかと思うが、そのあたりも踏まえて議論を深めていっていただくよう、教育委員会にお願いしたい。</p>
副委員長	<p>【4 議題 宝塚第一小学校の教育環境適正化について】</p> <p>議事4 議題に入る。事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>資料4「宝塚第一小学校の教育環境適正化について」の「I これまでの取組について」に基づく説明</p> <p>・今回の会議では、本委員会の方向性について、委員の皆さんに確認させていただきたいと考えている。</p>
副委員長	<p>今後、本委員会で教育環境適正化のために何を話すかということ、本日議論したらいいのではないかと事務局からの意見があり、我々もそう思っている。過去のことを言い出してもきりがないので、未来を見据えた議論をされたいと思う。</p> <p>ただ、4人の委員が、今改めて校区変更すべきだとおっしゃっている。それも含めて忌憚のない意見を、ぜひ賜りたいと思うが、いかがか？</p>
委員	<p>平成22年当時の校区変更案について、少しうろ覚えであるので、どこをどうするものであったか、ご説明いただきたい。</p>
事務局	<p>宝塚第一小学校と他校が接するところ、例えば、中州などは末広小学校へ、というものであったが、地域からの反対意見等があり、撤回したということになる。</p>
副委員長	<p>追加して言うと、当時、教育委員会で説明会を開いたところ、保護者や育友会、地域の方から反対意見があったので、校区変更案を撤回したということである。</p>
委員	<p>前回の書面会議では、校区変更が必要であるという意見を出させてもらった。その理由としては、本委員会は何回か開催しているが、目標がない。要は、宝塚第一小学校が、どれくらいの規模になれば適正化されたのか、という目標がない。</p> <p>例えば、先ほど委員が言われていたが、800人という前提があるということであれば、上限を800人にして、その差分をどうするのか、というような意見があると思う。目標を決めずに、いろいろなことを議論しているので、あまり前へ進まないというのが、私の印象である。</p> <p>まずは明確に宝塚第一小学校の適正な水準はいくつなのか、ちゃんと決めて、それではどうするのか、という議論を進めるべきである。目標を定めないと、無駄に回を重ねることになるような気がする。</p>

委員	<p>転換期ということ踏まえると、校区ということだけではなくて、建物の方についても、どこまでエンドポイントを求めていくことができるのか。この仮設校舎は、一階の部分は非常にクーラーが効くが、2階の廊下は非常に暑い。第2図工室は、冷気が漏れてしまう状況である。</p> <p>転換期というのであれば、校区編成だけではなくて、校舎の改築、プレハブ校舎や給食室の保全、補修についても議論できるような会であってほしいと思う。しかし、確か2023年から本委員会が発足して、予算のことが決め手で建て替えは難しいという話になっていた。実際にそれを議論して無駄なのか、それとも議論していく中で変えることができるのか、ということが私には疑問である。</p>
委員	<p>先ほどの説明で、30クラス、1000人前後の児童数がしばらく続くという話があった。この仮設校舎は10年ぐらいの耐久年数と以前にお聞きしたと思う。本委員会の発足時に、本校舎自体を建て替えられない、この仮設校舎自体の修繕とか増築はなかなか難しいというお話であった。そうすると、この1000人前後の状態があと数年、10年単位続く間に、この建物自体が老朽化していくので、どう考えているのか。暑さも大変厳しくなっているため、この仮設の状態でもいいのかどうか、という施設的な問題がある。</p> <p>あとは校区変更については、本当に必要だと思うが、いずれ小中一貫を見据えた状況が来るとお聞きしている。その小中一貫が大体どのぐらいで再編成されていくのか。仮にここで校区だけの変更を議論しても、その後、小中一貫になった時に、また校区編成が変わるというのであれば、またさらに会議をするということになり、効率的に良くないと思う。本当に小中一貫が何年後を見据えて計画が進められているか、どうせ変更するならば、小中一貫の状況に合わせて校区変更しないといけない。早々校区変更できるものではないと思うので、見通しがどうなっているのかお聞きしたい。</p>
副委員長	<p>一旦質問を打ち切ってもよろしいか？ それとも、地域側としては、どうか？ ～ 挙手なし ～</p> <p>当時は校区変更反対であったが、それから大分雰囲気は変わってきている。けれども、やはり今もってしても、校区変更に関しては、急いでやる必要はないのではないか、という声も聞いているので、そこも踏まえないといけない論点であると思う。</p> <p>今のことを踏まえて、事務局から願います。</p>
事務局	<p>まず、教育環境の適正化について、その必要性はあるものと認識している。特に第一小学校については、「仕方がなく、できる範囲」という言葉の中で、教育活動の制限を加えた中で、日々、子ども達が生活していることは事実である。運動会一つとっても、音楽会一つとってもそうである。特別教室の理科室を使える時間数も、小規模校から比べると少なくなっている。そのような実態を見ると、教育環境に大きな課題があるというのは、校長先生から既にお話いただいているので、その認識でいる。</p> <p>次に、校区変更について、第一小学校区において、かつてから無かったのか、と言えば、かつてからあった。学校ができた昔々であるが、この地域には第一小学校しかなかった。次に西山小学校ができた。当時は宝塚第一中学校であった。昭和35年に宝梅中学校ができるとい</p>

うことで、同じ地域に中学校が2校になるので、第一中学校が今の仁川の位置に移転した。第一中学校は昭和22年に開設し、昭和35年まで今の西山小学校のところにあった。第一中学校と第一小学校は同じ地域にあった学校だということがあり、西山小学校に分離開校している。その次に、逆瀬台小学校の場合は、逆瀬台地域の開発に合わせて開校した学校である。第一小学校区を大きく組み入れることはなかったが、一部は編入された地域もあった。次に、大きく校区変更したのが、末広小学校ができた時期である。これは地域のほとんどが第一小学校区だったところが、末広小学校ができたことによって分かれるということになった。

何が今と違うかという、新設分離であったということである。新しい学校ができて、新しい学校の第1期生として、それぞれの地域に入っていくということができたので、今と少し環境が違うのかなと思う。そうした違いがあるということが、今の校区変更を難しい課題としているところであると思う。

先ほど、平成22年の校区変更について、簡単な話もあったが、一番大きな原因というのは、ザ・タワーという大きなマンションができて、もう受け入れがなかなか難しい状態であったことである。このプレハブは平成19年に既に建っており、このプレハブをもってしても、もう受け入れができない。その時の教育委員会の児童数の試算が、30数人の児童が増えるという試算をもって、もう受け入れができないから校区変更しかない、という説明であった。

中州2丁目が末広小学校であったり、寿楽荘が逆瀬台小学校に行ったりとかいうことで、西山小学校は児童数が多かったのも、主に逆瀬台小学校と末広小学校に分離するという校区変更案を提示した。しかし、開発業者に確認すると、まだ全部戸数が売っていた訳ではなかったが、概ね売れていた中で確認できたのが、小学生は4人だけであった。4人と30数人の違いである。平成22年10月17日の説明会で、4人だったら受け入れができるのではないかと、という意見が参加者から出て、30数人という説明と違うということで、その場で白紙撤回をしたという流れである。

当時は、「受け入れができるのであれば、このままでいい」という地域全体からの反対意見を受けて校区変更案を白紙撤回したということで、しばらくは地域の方が教育委員会を傍聴に来られて、校区変更の動きを再度するのではないかと、注視されるような動きがあった。教育委員会としては「しばらくそのような動きはない。次に校区変更を議論する時には、きちんと地域の方に相談してから議論をする。教育委員会が一方的にすることはしない」というお約束をさせていただき、今に至る。

建物について、仮設校舎が建設されたのは平成19年であるから、10年以上も使用しており、一定の修理や補修を加えないといけない。特に空調は効きが悪くなっていくことから、普通の空調の更新時期よりも急いで更新をしていかないとけないということは、教育委員会としても課題としている。適宜予算化はしていかないとけないと思う。ただし、本体そのものを建て替えるということはなかなか難しい。これは法律上の問題になってくるが、ここを解体してしまうと、当然、その間の受け入れができないので、別のところに一旦建てて、そこに子ども達を移さないといけない。建物を建てる時には、一定距離以上を空けて建てないといけないということから、建てる場所が実は無い。これの代わりにどこかに建てて、これを壊してしまうとしても、5メートル以上離して建てないといけないという制限の中ではなかなか難しいというような実態がある。ここを何とか補修しながら、維持していかなければならない、というのが実態である。当時はリースで建設したが、市の方で買い取ったので、基本的には恒久的に活用で

きという位置付けにはなっている。契約上、借りているものではなく、市が買い取ったということになっており、形状的には仮設であるが、一定期間だけしか使用できないという制限がなく、建物を改修すれば長期的にも活用できるという関係になっている。一定の改修工事を加えながら維持していこうと思う。本校舎のように、長期的に30年40年使えるのかという、決してそうではないので、それまでの間、校舎を増築するのかという、そうではなく、基本的には全体的な人口バランス、先ほど委員長からもお話が出ていたが、すぐ近くの学校では小規模化が著しい状況になってきており、そうした学校との平準化ということも含めて、しっかりとご意見を聞きながら、教育委員会の方で判断をさせていただきたいと思う。建物そのものについて、何か大きな改修工事や建て替えをするということではなくて、平準化する方向で検討していきたいと考えている。

仮に今回、校区変更を実施するけれども、小中一貫校の設置により、また校区が変わる可能性があるという課題がある。そのようなことも見据えながら、これから議論をさせていただきたいと思う。校区変更となると、周辺校の逆瀬台小学校、西山小学校、末広小学校への分離ということが具体的な方法としてある。小中一貫校にする時には、この地域の小学校も中学校も含めて、1つの学校として考えることができるので、校区割が変わってくる。光ガ丘中学校だけで9年制の学校、宝梅中学校だけで9年制、逆瀬台小学校だけで9年制、西山小、一小、末広小で9年制になると、校区が非常に狭くなる。もっと大胆な校区編成・見直しということになってくるので、確かにおっしゃっていただいたように、2回の校区変更が必要になる可能性も出てくる。それが一体いつ頃の目途になるということも含めて、次回以降に資料を出しながら、この中で検討いただければと思う。ただ、その前提として、校区変更・見直しをすることによって、平準化していくことの必要性というものが確認されて、次の段階でお話ができればと思うので、今回は特に校区変更に向けた手順としては、小中一貫なのか、単純に小学校の校区変更なのか、これは時期的なことも含めて、ご意見いただければと思う。今日は方向性を議論いただければというふうに考えている。

副委員長

委員から指摘のあった、だからといって今の子どもたちはどうするのか、その予算化について、コメントをお願いします。

事務局

大規模改修については、計画的に進めるべきもので、国からの一定の補助金をもらって、あらかじめ長期的な計画を立てて工事をしている。去年、大規模改修が入ったのも、あらかじめ計画にあったものである。そうしたものを国に申請して、一定の金額、3分の1の国の補助を受けて工事をしているということになる。

ただ、委員がおっしゃっていただいたものは、大体15年から20年に1回の大規模改修ではなく、空調の関係であるとか少し軽微なものであり、その補修費用というものが必要になってくると思う。例えば、プールも、直近で言えば5000万円ほどかけて修繕しないといけないという課題もある。そうした修繕を今後どうしていくのかということが、やはり今の子ども達にとっての負担が少しでも減るように、学校とよく連携をとりながら、教育委員会の独自の予算を付けることができないか検討していく。空調も2年ほど前に、国の予算とは別で市の方で空調のやりかえをして、現在は多少効くようになったことも、その成果であると思う。そうした取組は、今後継続して対応していきたいと思う。

委員	<p>そのご意見を聞きたくて、委員の皆さんにも聞いていただきたくて、質問させてもらった。この仮設校舎の補修をやっていこうと、この委員会の中で議論していただけるのであれば、例えば屋根のところに太陽光発電を付けると、1階の照り返しがなくなるであるとか、風除けをするであるとか、軽微ではないかもしれないが、そういうところも視野に入れて、市の予算の中でできる範囲のところで、私は良いと思う。空調も他のものよりパワーのあるものを付けていただいている。そういうものを少しずつ、全改築というよりは、今ある環境の中でより良いものにするということであれば良い。そのようなことも、検討委員会の議論の中に入れていただけるとすごく嬉しいと思う。</p>
副委員長	<p>他にどうか。</p>
委員	<p>今、人数が多いということは、どうしようもないと思う。私自身は長寿ガ丘に住んでおり、校区変更に関して、長寿ガ丘、月見山は本当に他にどこに行くこともない。生瀬に行けばいいという非常にきつい言葉も、40年ぐらい前に PTA 仲間から言われたことがある。それはいくら何でも無いと思う。</p> <p>私自身は一小からの距離が遠く、非常に愛着があるという訳ではなく、一小に行かざるを得ないという中で子どもたちを育ててきた。ここに集まっている方は、やはり様々な事業や、自治会活動を一生懸命やってくださっている方であるので、特に愛着があると思う。「今はその愛着ということ忘れて、やはり本当に子どもにとって何がいいのか」ということを議論すべきであると思う。</p> <p>また、先ほど事務局からザ・タワーの試算した数値が違ったため校区変更を撤回した話があった。住宅環境は10年ぐらいで変化していくので、教育委員会には常に情報を押さえておいてほしいと思う。</p> <p>それから、学校や先生方は、子ども達のために何をしたら一番いいのかを一生懸命努力してくださっている。子どもにしたら、他の学校との差は分からないので、それなりに良い学校であると思って卒業していくと思う。児童が多いからトラブルが多いのではなく、むしろ児童多いので、いろいろなお友達がいる、非常にいろいろな人を見ることができる、子どもの成長にはとても良かったと思う。</p> <p>そのようなところも生かしつつ、どうすればいいのかと言うと、本当に答えが出ないと思うし、一度校区再編を行って、小中一貫校になった再度再編となった場合に困るということも理解はできる。しかし、委員がおっしゃったように、今、物理的に児童数がどうしようもないということであれば、800人規模となるような試案を作ってみてもいいのではないかなと思う。それを皆に受け入れなさいではなくて、提示してみるのが良いと思う。</p>
副委員長	<p>前向きな話をしていただき感謝する。発言されていない委員の皆さん、どうでしょうか。</p>
委員	<p>私自身は末広小学校区であった。平成22年の校区変更の際に、中州が末広小校区になるという変更案を示された時、まるで末広小が良くないという差別発言と思ったぐらいの言い方をされたことを覚えている。身内ひいきではないが、大変良い学校であり、通学区域の弾力</p>

	<p>的運用で末広小を選択された人は、良い結論を出してくれたと思っている。</p> <p>ただ、委員のお話で、800人規模のところの設備しかないところで、1000人通っているというのは、教職員とか給食調理員の方には負担になっていると思う。西谷小学校にバスで行くことを選んだ方もいらっしゃるので、校区編成よりも、一度体験で他の学校へ行くというものがあった方がいいのではないかなと思う。</p> <p>私の息子は、1000人規模になった平成22年に一小を卒業している。当時、既に1000人の中で生活していたが、まだ校舎は建て替えたところで、この仮設校舎が新しかった。気候も10年前はそんなに厳しくなかった。なので、あまり違和感なく通っていたと思う。社会の環境変化で、大規模校である施設が子どもに与える環境の厳しさについては、ある程度ハード面で変えていかないといけないのではないかなと思う。</p> <p>校区変更については、感情論もある。一小は1000人以上の時が多かったが、先生方や子ども達はその状況の中で、適応しながら生活していくということも大事で、大規模校を卒業した影響でデメリットがあったということは、私も卒業生の親としては感じていない。ただ、本当にこの仮設校舎も含めて、ボールの音がドンドンと響くような建付けであるし、2階は暑いということは、委員が先ほどおっしゃられたように、市の予算の中で風除けであるとか、子どもの健康を損なわない状況を、議論を重ねている中で作っていただきたいと思う。</p> <p>中学生の立場として教育環境を考えると、暑い中、毎日、光が丘中学校の生徒は歩いて通っている。去年ぐらいから体操服での通学が可能となった。制服で通学するのはかなり厳しいだろうという学校の判断で、家の前を通るほとんどの生徒は、今体操服で通っている。気候の変化の中で、学校も考えながら運営されていると感じている。</p>
委員	<p>私の息子は、1000人規模になった平成22年に一小を卒業している。当時、既に1000人の中で生活していたが、まだ校舎は建て替えたところで、この仮設校舎が新しかった。気候も10年前はそんなに厳しくなかった。なので、あまり違和感なく通っていたと思う。社会の環境変化で、大規模校である施設が子どもに与える環境の厳しさについては、ある程度ハード面で変えていかないといけないのではないかなと思う。</p>
副委員長	<p>育友会から願います。</p>
委員	<p>今回、本委員会に初めて参加する。過去の議事録を一通り拝見すると、短期的なものの中長期的なものに分けて議論する、という立て付けになっている。中長期的には、既に平成28年3月に教育委員会で『宝塚市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針』を定めている。その中にきちんと小中一貫教育や、小学校区と中学校区の整合性を取ることということの指摘がある。もう10年ぐらい経っているが、どうなっているのか疑問に思う。10年経ったら、ある程度校区割りとか、そういう教育外のことも含めて決まっているのかなと思う。ただ、残念ながら保護者には何も情報が降りてこない。そうすると検討しようもなく、そのような議論や基本方針があるということすら知らない、という状況になっている。この会議では、そういった小中一貫教育のメリットとかデメリット、他の自治体でも取り組んでいらっしゃる場所があるので、それを調査した上で議論するということが必要なのかなと思う。スピード感を持ってやらないと、またすぐに10年経つと思う。</p> <p>ある程度中長期的なところも踏まえた上で、今、目の前で子ども達が何に困っていて、どういう予算が必要なのか、予算の使い方に影響してくると思う。プールに5000万円使うのか、プールの授業で泳ぎ方を教えるのは無理な状態であるのに、そこに予算をかけるのか。教育内容と予算の適正な配分というところは議論していくべきであるし、そういった場として日常的に育友会と校長先生とで意見交換をさせていただいている。コミュニティスクールがあるの</p>

<p>委員</p>	<p>で、そういった場でも具体的なことは検討していきたいと考えている。</p> <p>最初に校区変更の話から入ったので、少し変な話になってしまった。一番大事なことは、皆さんが言われたように、子ども達の教育環境が本当にこのままで良いのかというところである。グラウンド、トイレ、教室、給食室、通学路にしても、過大であるということであれば、早急に改善するべきであると思う。我々が考えないといけないのは、子どもが教育を受ける環境が適正になっているのかということだと思う。</p> <p>今のままで、5年10年いけるというのであれば、少し修繕・修正していきましょうという議論で済んだが、今の状態を見ていると、早急に何か対応しないと、子どもの環境として可哀そうであると思う。</p> <p>今のままでいけるのか、今のままでは無理なのか、という議論が必要である。校区変更はその手段でしかない。小中一貫校が将来的にあるとしても、それが3年先なのか、5年先なのか10年先なのか、それによって今の環境を変えていくということを、我々はいつ、どのタイミングで、どういうふうにしていくのか、ということを考える必要があると考える。</p>
<p>副委員長</p>	<p>小中一貫校は、いつ、どんなイメージで進めていくのか、という情報がないと、議論の着地点が見えてこないということであった。事務局から回答をお願いする。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、平成28年3月に基本方針を策定し、それに基づいて今の動きをとっている。行政側が一方向的に進めない、地域と協議をして進めるということから、順次、この第一小学校区も含めて、長尾小学校区やいろいろな地域で、この適正化検討委員会を立ち上げて、校区変更や小中一貫のあり方について議論を進めているところである。</p> <p>小中一貫校の時期については、校区変更をどの程度まで許容するのかによって、受入できる規模というものがある。人口が減少して、ある程度成立する事業でもあるので、そうした人口の減り方が比較的小さい第一小学校区については、相当な期間がかかると思う。一方で、人口が少ない地域は、小学校と中学校を合わせて教育活動を展開することが比較的容易にできるので、短い期間でできると思う。</p> <p>第一小学校は、いつになるのか、今申し上げることできないが、比較的時間がかかると思う。5年先ぐらいにできるかというところではなく、恐らくは10年先ぐらいを見越していかなくてはいけないと考えている。ただ、この5年という時間が長いと見るのか、短いと見るのか、ということであるが、直近の校区変更、中山五月台小学校と中山桜台小学校の学校統合をしたが、議論を始めてから校区変更を完了するまでには4年、5年かかっている。比較的スムーズに進んでいった方である。校区変更というのは、計画を立ててから順番に取り組んでいくので、どうしても5年ほどは短くてもかかってきてしまう。小中一貫校となってくると、人口が減ることを待たなければいけないという条件もついてくるので、この第一小学校区で考えれば、10年ぐらいは必要であると感覚的に思う。</p> <p>あと、小規模校はもう少し早いタイミングでできるかと思う。組み合わせることも当然出てくる。末広小学校も含めた小中一貫教育として、末広小学校に校区変更するのであれば、もう少し早いタイミングになる。逆瀬台に行く子であれば、もう少し早いタイミングになってくる。昔の地域割りという、伊子志村であった地域、逆瀬川から宝塚の方に向けた地域全体で考え</p>

れば、地域が疎らになり、小規模校は早くて、大規模校は少し時間がかかるということになってくと思う。その時期も含めて、人口割によって多少変わってくるので、次回以降のこの適正化検討委員会の中で、この程度の規模にすれば大体どれぐらいの時期になるというのは、人口の減り方も含めた推計とっており、提示することができると思う。

地域割でキーになってくるのが、この一小であるとか、良元、長小、宝塚、小浜である。昔から出来ている学校である。そこから大体、分離していつている。もう少し厳密に言うと、昔からあった学校は良元小学校、宝塚小学校である。そして、小浜小学校、長尾小学校、西谷小学校である。宝塚市の小学校は、そこからスタートして、分離開校していったという歴史がある。宝塚第一小学校は、昭和11年に良元小学校から分離開校して出来た古い学校の中の1つであるので、キーになる学校から整理が必要になってくる。今、宝塚第一小学校と長尾小学校、一番大きい2つの学校から入って、小中一貫教育も含めて、基本方針に基づいて地域の中で議論を始めていて、一定整理がつけば、その周辺校も含めて、ある程度の整理がつくかなと思っている。ただ、具体的な議論がまだ出来ていないので、皆様方には具体的な方法、方向性がお示しできていないが、もし今日のご意見を受けてということであれば、次回以降、具体的なプラン、計画みたいなものを出して検討いただければと思っている。

小中一貫教育までを考える時に1つお考えいただきたいのが、実は小学校区と中学校区には、違いがあることである。小学校区というのは、150年を越えている学校があるが、中学校区にはそういうものがない。中学校は昭和22年以降にしか出来ていないからである。小学校は、昔、地域の単位であった。その地域の単位がそれだけでは事足りないからということで、明治22年に市町村というものが制度上、出来上がった。最初は、小学校を維持する単位が、1つの地域単位であったということである。そうしたところから地域が出来ているので、小学校区への思いが非常に強いのである。1つ1つの地域を見ていくことが重要である。そうした意味で見ると、昔で言う良元村、中でも、明治の始めの頃まで伊子志村であった地域、末広小学校、宝塚第一小学校、西山小学校、逆瀬台小学校の4つの校区で考えていく、地域レベルで考えていくことが、合理性が非常に高いと思われる。もし、小中一貫校や教育ということであれば、周辺校の方へ協議を入れて、拡大して協議するというのも、どこかの段階では必要になってくと思う。

副委員長

今いる子ども達の環境をしっかりと良くしてほしい、ということについても回答をお願いします。

事務局

学校規模の適正化、特に大規模校での対策としては、どうしても期間が長くなるということをお話した。我々も短期的な対策と中長期的な対策で分けて考えており、短期的な対策となると、修繕も含めた子ども達の現状の中で環境をいかに良くしていくのか、という視点で空調整備とかになってくる。中長期的な対策となると、もう少し大きな施設修繕、或いは校区変更ということである。そういう意味では、短期的な対応としての小規模修繕というものは、しっかりと学校の意見を聞きながら対応していきたいと思う。

先ほど、委員から提案があったように、この会としての一定の考え方をまとめて教育委員会にご意見いただくということも、1つの方法であると思う。是非、そういう方向でお話ができればと思う。

副委員長	何か方策案を出した場合に、どのように進めてもらえるのか、についてお願いします。
事務局	基本方針に書かれている方策の中に、校区変更というものもあるが、当然1つの例示であるだけである。具体的な方策について、地域の中で意見があるのであれば、教育委員会の中でも検討材料に入ってくるかと思う。この委員会で出た意見というものは、やはり教育委員会として、丁寧に慎重に扱っていきたいと思う。
副委員長	時間となったので、委員長にまとめていただきたいと思う。
委員長	<p>非常に熱心な、活発な意見を感謝申し上げます。</p> <p>第一小学校の児童数がピークの時は、1967年、昭和42年の時で、1600人、37クラスであった。当時は1クラス50人ぐらいであったと思うが、それから1000人を切った時代というのは、10数年しかなく、あとはずっと1000人を超えている。これがこの地域の一番の特性と言えるかもしれない。西山小ができ、末広小ができたが、震災後にマンション建設が進み、結局、それでまた人口が増えた。非常にこの問題というのは、根深い問題であると思う。ただ、中学校で考えると、ほとんどは平準化されている。中学校では、大規模校、小規模校がなく、ほとんどが500人前後で、バランスの取れた生徒構成になっている。そこに何かヒントがあるように思う。</p> <p>私としては、やはりこの問題は一気に解決するのは難しいけれど、本委員会に環境という名前がついている以上は、やはり子ども達が安心して、また快適に勉強できるように、委員からもご指摘あったように、給食室の充実や、或いは空調関係、或いは気候変動による大きな影響などを踏まえて、議論をスタートしていただけたらありがたいと思う。</p> <p>それから、この街に2万3000人が住んでいるので、単一のまち協としてはものすごく難しい。3000人のまち協さんもある訳で、7倍のまち協をまとめるというと、正直に言うと無理である。震災のことを考えても、避難所は基本的にここしかなく、無理な話である。だから、市の当局としては、俯瞰的に物事を考えていただいて、その中でこの小学校の在り方をどうするのか、今度の新しい市長さんは聞く耳を持ち、考える力を持つということをおっしゃっているので、是非お願いしたいと思う。</p> <p>本日は皆様、会議進行にご協力いただき感謝する。</p>
副委員長	<p>【5 閉会】</p> <p>では事務局へお返しする。事務局から何かあれば、報告等をお願いします。</p>
事務局	<p>いろいろなご意見をいただき感謝申し上げます。</p> <p>別の話になるが、2点お話しさせていただく。</p> <p>1点目は、夏季臨時育成会のお礼である。今、子ども達の学校が終わってからの居場所について、育成会、待機児童問題というものが、宝塚市の中でも非常に大きな課題となっている。かつては、保育所の待機児童対策に、子ども未来部という担当が、年がら年中走り回っての対応であったが、幸いなことに、そこは待機児童がゼロになった。現在、小学校における育成会、待機児童対策に苦勞しているところである。教育委員会の方で、去年から夏休みの間</p>

だけであれば、こうした空き教室を活用させてもらって、中には夏休みの間だけ仕事が無くなる学校職員や、臨時的任用職員という人材を活用して、教育委員会が主催での待機児童対策、特に朝から晩までの、子どもが家に居ることを保護者は心配であろうから預かりましょ、ということで対応している。そうとはいうものの、臨時的任用職員がそれほど潤沢にいる訳ではなく、用事もあり、全員が従事してくれる訳でなく、苦慮もした。ただ、この第一小学校につきましては、まち協さんの方から、支援員さんと補助員さんを多く出していただいて、ほとんどをその方々で賄っているという状況であり、人的にいうと非常に安定的にこの第一小学校は運営できている。そういう意味で考えれば、この第一小学校の地域力というのは、非常に大きいと思う。まち協の方々には感謝申し上げます。

2点目は、お知らせである。体育館の空調工事を実施している。宝塚市は、昨年度から順次、体育館の空調工事に取り組んでおり、比較的早くに設置するのが、この第一小学校である。避難所に指定されているところから、順次設置し、最終的には全校の空調工事を2年間で終えようと取り組んでいる。子ども達はこれから、空調の効く中で体育をすることや、或いは学年集会などが体育館で活動することができるようになる。そうしたことでも、子ども達の活動というのは広がると考えている。一部有料になるかもしれないが、地域の方も、夏の暑い活動を外ですることなく、体育館をご利用いただけるようにもなると思う。体育館の空調工事が終われば、また大いに活用していただければと思う。

事務局の方から、お礼が1点、お知らせが1点であった。どうもありがとうございました。